

深い学びを支える

アカデミック・ライティングと思考力 ー自律した学習者の育成に向けてー

参加者アンケート

当日参加者数：68名

アンケート提出数：55件

千葉大学アカデミック・リンク・センターは、教育関係共同利用拠点として、「教育・学修支援専門職」の養成のために必要な研修プログラムの構築・運営の準備に取り組んでいきます。今後の活動のために、本日のセミナーに参加されたご意見・ご感想をお寄せください。なお、記載いただいたご意見・ご感想は、個人名・組織名が特定できないかたちで公開する場合があります。

1. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・とてもよく学びの支援の意義と方法について理解することができ、大変勉強になりました。
- ・初年次のみでなく4年間での教育という点。
- ・ライティング教育の5類型が初めて聞いた。
- ・井下先生が看護師教育にも関わっていることを知り、力強く思いました。
- ・「身近な疑問をもちつづけることは勝利の職業につながる」とのお話は大変共感を持ちました。
- ・レポートの見本やワークシートを示さないと、学生に書く練習をさせるのは難しいと感じました。大学生でもここまで用意しないと書けないのかと。
- ・初年次教育が2年次教育につながっていないことが多いこと。（本学図書館も単発での初年次教育を行っており効果があるか不安だったため）
- ・学生向けの授業では身近なテーマを揚げ、批判的検討をしていくことで根拠のある倫理立ったライティングにつながる事が分かりました。
- ・興味深く聞きました。「書かせる・書く」というのは、むずかしいですが、ワークシートを使って、学生が考えをまとめやすくできるアイデアがよかったとおもいます。実践できる機会があればと思います。
- ・初年次のみでなく4年間のカリキュラムとすべきこと。
- ・学習の転換について、大変興味深く聴かせていただきました。
- ・アカデミックライティングで、ディシプリンの重要性を学ぶことができた。
- ・アカデミックライティングをばくぜんとしてイメージできていなかったものが、類型によりすっきり理解できました。
- ・初年次教育が2年次以降につながっているのか？図書館が実施する単発の授業での講習はただ実施するだけでよいのだろうか？と思っていたところに“発達観・学習観の転換”のお話を聞いて、自分の中で答えが見つかった気がします。
- ・大学の授業では分業が進み、初年次において受講させて学びの基礎を学ばせれば2回目以降につみあげたことを活かして専門教育に結びついていくと思いがちだが4年間のゴールのイメージができるように連続性をもって教育することの重要性を知ることができた。
- ・ライティングの体系が理解できたことは非常によかった。本学にあてはめて考えれば、東京歯科大学と同じことになりそうです。
- ・4年間を見据えたライティング教育として発達観や学習観の転換・学習の転換に二段階があることなど。
- ・書くこと等から大学4年間を通して思考力を鍛えること。
- ・ライティング教育によって、同時にクリティカルシンキングを学んでいく工夫をできるという方向性は方向性として合っていることが確認できた。

(次ページに続く)

- ・ライティング指導のいくつかの資料を読んできましたが井下先生の作成法はとてわかりやすく学生に対してもつたえやすい内容だと思いました。
- ・アクティブラーニングにある授業でワークシートの活用がとて理解しやすかった。レポート論文を書く訓練の重要性(将来の財産となる)が理解できた。
- ・ライティングの種類がよく整理されていてわかりやすかったです。
- ・アクティブラーニングによる授業の仕組み、具体的な例、論文の書き方と効果。
- ・専門の試験で私が好んで問うことが「知識変換型」の思考を要求しているものであったということ。学科教育(理・生物)の担当科目の中で、知識の再構造化までを取り組むということの難しさも感じる。
- ・レポート、論文を書くことは自分が成長する機会というのはとてうれしいことであった。Unlearn とか relearn という発想も新鮮だった。
- ・アカデミックライティングの果たしうる役割。
- ・心理学の先生方は、お話が上手ですね。これに内容があるので尚更。
- ・書く力を養うためのフレームワークを理解した。
- ・ライティング教育の累計化の視点を用いて、自校のライティング教育の現状分析と改善を進めていくことができるのではないかと思った。
- ・アカデミックライティングの3要素について。
- ・大学ライティングの歴史から現在の思考、ライティングの課題がわかった。
- ・「思考力」の鍛え方の基本と具体的な取り組み方についてイメージがついた。
- ・大学でのライティング教育の分類について、新しく学ぶことができた。
- ・ディシプリンでの学習経験の重要性。unlearn-relearn の考え方は新しい発見でした。
- ・大学における「ライティング」教育は、非常に重要であると聞き、また痛感しておりました。本日の講義で、大変論理的・客観的・専門的・統合的に理解し学ぶ事ができました。本も読みたく思います。
- ・初年次のみでなく、学士過程4年間通じたライティング教育は重要であり。カリキュラム改変の際に生かしたいと思います。
- ・自分がやってきたことが、専門知によって言語化された気がします。
- ・learn-unlearn-relearn 学びほぐすという考え方 問いをもたせる。
- ・初年次教育から、4年間の学士過程を視野に入れたカリキュラム設定について、新しい視野がひらけた。
- ・知識変換型ライティングが重要であり、その指導が必要であること。
- ・大学でのライティング教育の5類型がある事。知識の再構造化。
- ・ライティングを科目とした場合にどうすべきかのポイントは理解できたと思います。
- ・具体的なセミナーでどのようにライティングを指導すればよいのかがわかりました。
- ・初年次教育を短期で終わらせないことの重要性。
- ・学生は主体的に学習させねば;具体的にはこんな技法・あんな技法があります;ということですね。
- ・深い学びが 学びほぐし unlearn から始まることであり思考と深く結びつくのだということは私自身“意味づける”という言葉で語ってきたことと共通することであると思って拝聴しました。また、ワークシート は活用することができます。ありがたい資料です。
- ・今までとは違う 自分の考えを自分の言葉で表現することが重要になってくる。
- ・問いを持つことの重要性について興味深いお話をうかがえました。
- ・学生が本当に学ぶという構造を理解することができました。論文や授業での具体例を示されていてよかったと思いましたありがとうございました。

(以上、一部改訂)

2. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・批判的思考法はなかなか難しいと思っているので、学生にどうやって易しく説明できるのか。
- ・盛りだくさんでしたので短時間では消化できませんでしたので、今後著作を読んで学ばせていただきたいと思います。
- ・図書館が担うとすると、授業に連携していく労力が要りますが、工夫できないでしょうか？
- ・初年次教育で、どこまで指導し、2年次以降にどう接続すればよいのか。
- ・テーマ事態の内容は自分でみつけなければならないのですね。
- ・基本的には正規の授業で取り組むべきということを前提にしておられたが、他の形、例えば教務部署や図書館が主導する場合、どのような運用体制を取るべきか。
- ・4年間を通して思考を鍛えるライティングの重要性は理解できたが、どのようにすれば学部教育に組みこんでいくことが可能なのか。大規模大学での実践例を知りたかったです。
- ・実際の先生のご所属で、アカデミックライティングの授業をされていれば、
 - ◎授業のクラスサイズ
 - ◎TAなどのサポート体制
- ・情報の信頼性をどのように確認させるか？ Twitterは本当にダメか？ WI KIは？ その線引き。
- ・relearn について実践例などをくわしく伺いたかった。
- ・1回言及があったグローバル人材という用語はよくわかりませんね。
- ・プロジェクト学習における書く力の指導。
- ・ライティング教育に熱意を持って取り組む教員が少ない(人手不足)場合どうすればよいか。ライティング教育を体系的に組み立てるためには、何が求められるか。
- ・入学前教育から1回生へつながるライティング支援について。
- ・学生のモチベーション、学習への動機づけを持たせる方法。
- ・ライティングは成果物であり、表現の一形態であるので、そこに専門も一般もないのではないのでしょうか？
- ・短大、専門学校など、2年、3年間で学ぶ学校でのカリキュラムの考え方、初年次教育をうまく行えていないので興味深く考えさせられました。
- ・ディシプリン 専門分野、思考様式(型)とは、、、具体的にはどのようなことなのでしょう。型を学ぶことによって型をこわす破る、そして自分の言葉で組み立て直す、、、吸収する知識のことでしょうか。
- ・グローバル人材とはなんのでしょうか。
- ・学生のライティング技術の低下は著しく進んでいると思います。日本語技術を向上させる方策を知りたいと思いました。

(以上、原文まま)

3. 大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。

- ・教員と学生のコミュニケーションを支援する形での学習相談を実施しております。
- ・看護教育にたずさわっておりカリキュラムが過密なため詰めこみ教育になっているのでカリキュラムのスリム化からはじめることが効果的な授業方法を取り入れる条件になるかと思いました。
- ・初年次教育の授業連携ガイダンス、レファレンスを展開しています。だいぶ充実してきたと実感はありますが、2年時以降へのアプローチが課題です。
- ・FDと図書館の関係(どういう風に協働できるか)、初期段階における手間を周りとどこまで共有協働していくか(学生への教育はどうしても時間や手間がかかるため)
- ・初年次教育の取組例があれば、興味があります。
- ・組織内で浸透するまで時間がかかるので諦めない精神力が必要。
- ・特定の学部と連携し、初年次教育の1科目のうち図書館が担当する授業を実施しています。また、レポート作成の講習も実施しています。
- ・元教育学部にいらして東京の大学に異動された大井恭子先生も英語のライティング教育に熱心。
- ・学生を動かすプレゼンテーション。
- ・院生や学部生の効果的な活用が必要だと思う。
- ・看護学生に考える力を養う教育を検討し、実践をはじめています。今日の講演内容で部分的に行っているところもあり、勉強になりました。
- ・学習者の支援者として教員の役割があった方が学修効果は高くなるということがよくわかった。
- ・本学は学生(ピアサポーター)がレポートの書き方の対応をしています。学生ができるライティング支援があれば教えていただきたいです。
- ・基礎ゼミから継続的に関与できる能力とカリキュラム。
- ・自らが学ぶ力をいかに養うか、考えるか?そこを引き出すにはどうしたら良いか?を日々考えております。
- ・Essay Jack も英文の Essay を書く為に同じ様な事をさせていると思いました。
- ・学生の能力や得手・不得手にはさまざまなパターンがある。個々に寄りそいながら、ある程度の集団を支援するのはむずかしいと感じている。それぞれの段階にそったサポートをみつける能力、個々の部署や人をつなぐ能力が求められているように思う。
- ・振り返り 省察を生かした学習コントロール メタ認知。
- ・学生を受容する気持ち 否定をしないことに尽きると思います。

(以上、原文まま)

4. 本日のセミナーの内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・大学での学びは調べれば調べるほど楽しく学びたくなるものだと思っています。しかし、その波に乗れなくなると大学の授業についていけなくなる学生もいるかもしれません。退学者を出さないためにも図書館員としてさらに教育履修(学習)支援をしっかりとやらなければとあらためて感じました。
- ・桜美林大学アドに3年間在学しておりましたが通学過程だったこともあり井下先生の講義は聴きたくてもこれまでチャンスを逃がしておりました。本日は、拝聴できて大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ありがとうございました。
- ・特に文系では専門が軽視されているなか、重要なのは専門教育だとのこと指導がとても印象に残った。
- ・井下先生の著書を活用して、レポート作成のコツを知ろう！と題した講習を大学1～4年生を対象に行っています。本日、実際にお話を伺うことができ、これまで実践してきたことはまちがっていなかったのだと思いました。今後は教員との連携にも重きを置いて活動していこうと思います。
- ・ライティングセンターとライティング教育を学部の教育と連携させていく取組みについてテーマにしたセミナーを実施してほしい。
- ・著書が欲しくなりました。
- ・「教育の今に至る気付きを熱く語ってほしい」という言葉に力を得ました。
- ・とても有意義なお話を聞かせていただきました。ありがとうございました。
- ・ここまで考えてつみあげ式な教育が自大学でなされたらよいと思う。
- ・大変参考になりました。ありがとうございました。卒論指導をしていて、文章力・テーマ設定・引用などあらゆる基礎が欠けている学生が多いことに気づきました。初年次から指導する必要性を確認することができました。
- ・大学院生特に後期課程の方々には、参加すると後に役立つのでは。
- ・深い学びが得られたと思う。
- ・理論面の説明をもう少しじっくりと聞けるとなおよかった。
- ・自分たちのしている教育の構造がわかり、今後、発展させていくための参考になりました。ありがとうございました。
- ・アカデミックライティングについて学ぶことができ、今後業務に活かしていきたいと思います。
- ・大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・非常にためになりました。ありがとうございます。
- ・とても良くわかりました。具体的に説明して下さって良かったです。
- ・ライティング支援についての先進事例など、具体例も聞けるとなお良かった。
- ・ライティング支援を計画中であり、大変興味深く参考になりました。
- ・学問の思考様式を学ぶためのアカデミックライティングが参考になりました。
- ・本学では単発的にライティングセミナーを行っているだけなので、今日の内容を参考に先に進めたいと思います。
- ・質の高いセミナーを無料で開講してくださって驚きました。ありがとうございました。
- ・これからの人材をそだてていく上で、思考することの大切さを実感しながら聞くことができました。
- ・交換留学生です。国内ではレポートの書き方全然勉強したことがなく、大変助かっています。ありがとうございます。千葉大の授業で井下先生の本に出会えました。
- ・講師の先生を中心に、受講者のグループワークなどをしていったりすると面白いかと思いました。

(以上、原文まま)

5. 次の(1)、(2)について、該当するものに○をつけてください。

(1) a. 千葉大学外の方 36名 b. 千葉大学内の方 8名 (回答なし 11名)

(2) a. 学生 4名 b. 教員 14名 c. 大学職員(図書館職員を除く) 15名 d. 図書館職員 14名
e. 出版関係 2名 f. その他 6名

6. シンポジウムを何で知りましたか? (複数回答あり)

a. Web(アカデミック・リンク・センター) 9名 b. Web(図書館) 2名 c. Web(千葉大学) 4名

d. 図書館内電子掲示 0名 e. ポスター 2名 f. センターからのメール 12名 g. Facebook・Twitter 0名

h. asagao メールリングリスト 17名 i. その他 10名 (上司からの紹介・図書館協会メールなど)

7. 学外(千葉大学外)の方にお伺いします。次の(1)、(2)について、該当するものに○を付けてください。

(1) 参加の経緯 : a 所属機関からの推薦・業務命令 12名 b 自身の希望 37名 (記載なし 6名)

(2) 旅費の負担 : a 所属機関負担 30名 b 自己負担 13名 c その他 1名 (記載なし 11名)

8. 千葉大学 アカデミック・リンク・センターでは、セミナーの開催や関連する情報を提供しています。これらの情報を希望される方は、お名前・ご所属・メールアドレスをご記入ください。(既に登録されている方は引き続きお届けしますので、空欄で結構です)

お名前 : () ご所属 : ()

電子メールアドレス : 申込時に利用したもの それ以外 ()

ご協力ありがとうございました。

※ 22名が新規に継続的な情報提供を希望